

主日礼拝式プログラム 8:45~10:15am

キャンドルライト礼拝

キャンドル点火

賛美

「もろびとこぞりて」

「私たちは一つ」

「神の御子は」

「きよしこの夜」

献金

牧会祈禱&主の祈り

フラ賛美 シャロンフラチーム

メッセージ 子供たちへ サンディ森

聖書箇所 マタイ福音書1章18節~25節

メッセージ 「インマヌエル 神は、我らと共にいる」

関真士牧師

賛美 「荒野の果てに」

頌栄&祝禱

報告

会堂礼拝とオンライン礼拝が、主の御霊によって

一つとされ共に主を礼拝いたしましょう。

お知らせ

- 礼拝後10:30AM 初心者クラス(関牧師 教育館2階)、分かち合いのクラス(教育館1階)、マタイ福音書クラス(アイゾン直子、第二、第三週 教育館2階) 初めての方もどうぞご参加ください。
- 本日は、待降節(アドベント)第四週目です。救い主の降誕を心からお祝いいたします。
- 31日(日) 礼拝において、堀リナさんが証をしてくださいます。
- 関牧師夫妻は、ECカンファランス参加のために不在です。26日~1日までLA滞在です。
- 2024年ホノルル教会カレンダー(肥田画伯の讚美画)の先行予約を受け付けています。受付テーブル、オンラインをご利用ください。31日が予約の〆切です。

献金



風の吹くままに

▼今日は、降誕日礼拝です。礼拝堂に四本のロウソクが灯されます。礼拝式において、キャンドルライトサービスが行われます。私たちの救いの光、希望の光である、イエス・キリストを心から礼拝いたしましょう。

▼もう年末です。12月は師走といいますが、定説は、僧(師)が走り回るほど忙しい月という意味ですが、もう一つの説があります。師(師団、軍隊)に兵役している農民たちが、田畑を耕すために、この月だけ兵役を解かれて故郷に帰ることが許されたそうです。兵士たちは喜びのあまり走って我が家に帰ってくる、という意味で師走というそうです。

年末は、どうしても慌ただしく忙しくなります。しかし、その中にあっても、羊飼いのように喜びに満ちて私たちの魂の故郷であるイエスのもとへ帰っていき者でありたいと思います。そして戦場から退くことをリトリートと言いますが、まさに主の御前に静まる時としてのリトリートを持ち、この一年を振り返りたいと思います。

▼この一年、私たちの歩みの中に、散りばめられている主の恵みを発見し、感謝を捧げる者でありましょう。恵みは私たちを取り囲んでいます。

関真士牧師
sekishinji89@gmail.com

神の命令を守ること、それが神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。 ヨハネの手紙 5章3節

スモールグループの心得

心を傾けて聴こう、理解しよう、共感しよう。教えない、否定しない、批判しない。そのままを受け入れましょう。



分かち合いのポイント

①私たちの救い主イエス・キリストの誕生に、今いちど、思いを向け、感謝の時を持ちましょう。

②インマヌエルの恵みは、主と共に生きる私たちにどのような恵みを与えるでしょうか。

神は共におられる、

だから私は、****です。

と思いつく限り、ことばを入れてみましょう。

イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。」このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。ヨセフは眠りから覚めると主の使いが命じたとおりにし、自分の妻を迎え入れたが、子を産むまでは彼女を知ることにはなかった。そして、その子の名をイエスとつけた。

ホノルル キリスト教会

2207 OAHU AVENUE, HONOLULU, HI 96822

日本語部 事務所 ☎ (808) 973-4335

Email:office@honoluluchristian.churc



報



黙示録 5章12, 13節

屠られた子羊は、力と富と知恵と勢いと誉れと栄光と賛美を受けるにふさわしい方です。御座に着いておられる方と子羊に、賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくあるように。